

B747の思い出 その1

荒岡 衛

ボーイング 747-ジャンボジェット(以下 B747)は 1969 年 12 月にパンナムが最初に導入して以来、世界各国の航空会社で使用されてきた大型機である。日本航空では 1970 年 7 月から 2011 年 2 月まで、全日空では 1979 年 1 月から 2014 年 3 月まで運用された。日本貨物航空では貨物専用機を現在も運航している。

B747 を初めて見たのはおそらく 1972 年 3 月に卒論を終えたあと、卒業設計のために日本航空の羽田整備工場に行き、そのエンジン P&W 社製の JT9D の図面のコピーを貰った時のことだと思う。いただいた図面を真似て拙い断面図と性能仕様を作成し、なんとか卒業させてもらった。搭乗したのはそれから約 1 年後の 1973 年 7 月、ノースウエスト航空で羽田からシアトルへ飛んだ。それは私として 3 回目のフライトで前 2 回は YS11 だったから、飛行速度、高度、居住性などは比べものにならなかった。ただ席は満席のエコノミークラス通路側で外はほとんど見えず、サービスが悪かったことぐらいしか記憶に残っていない。

日本航空の B747 に乗った最初は 1977 年 8 月 6 日、羽田-札幌の JL523 便、機番は JA8119、あの御巢鷹山に墜落した機体である。私はこの機体に 7 回搭乗している。事故が発生した 1985 年 8 月 12 日には乗り損ねた。当時小倉に出張していて帰りは JL368 便に乗ろうと福岡空港へ向かった。空港へ着くのが少し遅れ、窓側席が取れなかったので 1 便後の JL370 便に変えた。到着後、駅から家まで歩く途中、漏れ聞こえる TV の声で何やら事故が発生したのを知った。家に着いて妻に聞くと JL123 便の墜落であった。この事故は私が乗り損ねた JL368 便が羽田に到着後大阪に向かう際に発生した。「残念、乗っておけば良かった。なぜなら JA8119 の最後の安全フライトに乗れたのだから」と言ったら「乗ってなくて良かった。下手をすれば死んでいたのだから」と言われた。